地域版 奄美

大島支局
名瀬市柳町12
☎0997-53-6
通信部
名瀬
瀬戸内
徳之島
沖永良部

工事ニュース、団体・企業ニュース、催し物などは支局、通信部へご連絡下さい。

名瀬市西田団地建設

6戸 夏頃に本体工発注か

名瀬市は、新規事業として西田団地建設を計画、17年度から用地取得に入り、夏頃の本体工発注を見込んでいる。

建設場所は未定。計画では建物規模RC造2階建6戸を17－18年度の2カ年で整備する。17年度当初予算案に工事請負費5086万円、実施設計及び地質調査に委託料700万円を計上。債務負担行為に限度額8184万円を設定しており、総事業費は約1億3000万円。夏頃の発注については、交付金整備計画の関係で多少ずれ込む可能性もある。

合いを図りながら17年度にも工事に着手する見通し。

国道58号龍郷町浦地区拡幅
新年度着手目指す

県大島支庁土木課は、国道58号・龍郷町浦地区拡幅を計画、16年12月末までに設計を終えており、17年度にも工事に着手する見通しだ。設計は1工区を国土技術コンサルタンツ、2工区を建設技術研究所が担当。

同地区の改良延長は約1・8㌔を対象に線形改良、両側歩道の設置に伴う拡幅などを中心とした整備を行う。拡幅では現況幅員5・5㍍から総幅員14㍍（車道6m）に整備するほか、路線内の構造物では羽衣橋の整備も実施する予定。

事業は19年度を最終年度として見込んでおり、予算や用地買収との兼ね

小湊小屋内運動場改修
屋根張替え等 6月にも発注か

名瀬市

名瀬市は、17年度に小湊小学校屋内運動場改修を計画、6月から7月にかけ発注する予定だ。17年度当初予算案に工事請負費に6912万円を計上。

改修内容は屋根張り替え、外壁塗り替え、サッシ交換など。状況次第で照明交換や床張り替えなども考慮している。

8日知名町、9日与論町
建築士会大島支部 講習会

県建築士会大島支部（栄博昭支部長）主催の建築技術講習会が2月28日に徳之島地区を皮切りに始まり、3月も郡内各地で行われる。

講習内容は、①建築基準法について②建築営繕工事について③設計・工事の適正な契約について－などで、県大島支庁土木課職員が講義を行う。

受講は無料。

日程は次の通り。

▽沖永良部地区＝8日午後1時から、知名町役場2階会議室

▽与論地区＝9日午後1時から、与論町防災センター

▽瀬戸内地区＝14日午後1時から、せとうち物産館

▽名瀬地区＝15日午後1時から、奄美会館2階会議室

▽喜界地区＝16日午後1時から、喜界町役場会議室

住用村赤房トンネルが貫通
早期供用目指し祝う

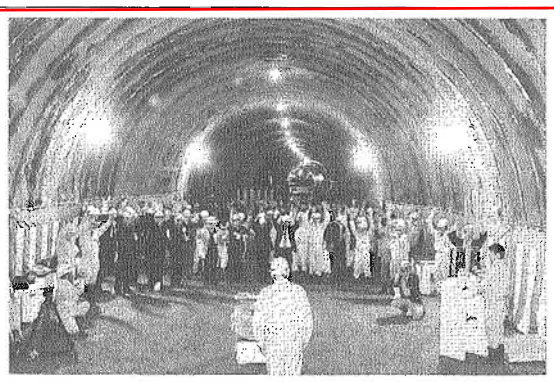
大島支庁

県大島支庁が整備中の赤房トンネル貫通式が3日、大島郡住用村の現地トンネル坑内で開かれ、発注者の県大島支庁など行政、施工に当たった建設業者など多くの関係者が出席し、通り初めや鏡開きでトンネルの貫通を祝った。

同トンネルは総延長1133㍍、15年7月から整備を進めてきた。施工は西松建設・渡辺組・中村建設特定建設工事共同企業体が請け負っている。バイパス総延長は2100㍍で、同トンネルのほか橋梁2本を設置（うち1本は完成）する。全体供用開始予定は19年度でトンネル関連事業費を含むバイパス総事業費は約60億円となっている。

式では、発注者を代表して県大島支庁の上園淳支庁長が「湯湾新村線は奄美大島南部の産業・経済振興に欠かせない重要な路線。現道はあい路個所が多く落石もたびたび起こるなどトンネル整備は住民にとって長年の悲願となっていた。今後も引き続き整備を進めバイパス全体の早期供用を目指したい」と挨拶を行った。貫通発破の後の通り初めでは出席者代表が二手に分かれて貫通点でがっちり握手を交わした。

主要地方道湯湾新村線の役勝橋から新八津野橋に至る現道は、1車線で幅員が5㍍しかなく車両の離合に困難をきたしていた。同トンネルが供用になれば所要時間が5分から2分に短縮され、カーブ数も26カ所から4カ所に減る。



貫通を祝う関係者ら＝住用村の現地で

あのひと この人

奥田 晋一さん（㈱ストーク）

――仕事の内容は。

設計、見積もり、施工管理などが主な業務内容です。

――休日は何をして過ごしますか。

以前はビデオ鑑賞などしていましたが、今は6歳の娘と遊んで過ごすことが多いです。

――最近うれしかったことは。

今年度に1級建築士の資格を取得したこと

――8年前に京都からIターンで来られたそうですが、奄美の印象は。

こちらに来て入社以来、建築士資格取得に向け日々忙しい日々を送っていたため観光などはあまりしていません。これから奄美の自然に触れる機会が増えると思います。

（名瀬市）

インタビュー席

鹿児島港湾・空港整備事務所 名瀬事務所長

東野 忠伸氏

――事務所の主な事業内容は

重要港湾である名瀬港港湾整備に関し、工事発注及び監督・調査監督などを行っています。

――今後の事業計画は

16年3月の港湾計画改訂に基づき事業を進めており、昨年4月には3万㌧級観光バースが完成しました。3年に事業着手した立神沖防波堤は改訂により当初の350㍍から700㍍に延長となり、現在は約330㍍の整備を終え、17年度も継続して整備を行ってまいります。山羊島の東防波堤（280m）は昭和57年から平成4年にかけ整備したものですが、小型船舶が入港する際に反射波が立ち操船に支障が出るということで対策要請があり、15年から消波ブロック製作及び据え付けを行っています。

海辺の自然学校
今夏に奄美で初開催

――これからの港湾整備の在り方は

ハード面では緊縮財政ということで、真に必要なものを安価で効率的な整備を実施していくことが肝要だと考えます。ソフト面に関しては、港を一つの資産ととらえ文化・歴史を生かした整備を行い、地域に密着したみなとまちづくりに取り組んでいきたい。

また、今年の夏頃に児童を対象とした「海辺の自然学校」を開く予定です。これはシュノーケリングを楽しんだり清掃活動を行う中で、地元の海や自然環境を理解してもらいその大切さを学ぶもので、奄美では初の開催となります。

――これまでの業務を振り返って感想を

奄美赴任は初めてでしたが地元の方々の温かいご協力をいただき事業をスムーズに進めることができました。プライベートでは住用村や龍郷町の川で沢ガニを捕ったり、焼酎や島ダコ・イノシシ料理に舌鼓を打ちました。2年間という短い任期でしたが、奄美の美しい自然や人情に触れ合うことができました。

――業者の方々へアドバイスを

発注者の意図をよく理解し、まずは基本に忠実にものづくりを行ってほしいと思います。技術面及び安全面に関して今後さらに研さんして地元発展に貢献していただきたい。

略歴

平成14年九州地方整備局港湾空港部海域・環境海岸課長補佐、15年4月から現職。好きな言葉は「人間万事塞翁が馬」。

建設業の詳しい情報は…
無料体験実施中
http://www.kc-news.co.jp
業者格付・県・市町村予算・発注予定工事 等々 情報は盛りだくさん
お問い合わせ：
099-222-6123